健康づくり拠点 Χ防災・減災のランドスケープ

A. 健康づくりの拠点として会話と交流のあるサードプレイスをつくるサードプレイス:家庭(第1の場)・職場(第2の場)でもない第3の居心地の良い場所



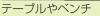


まちの縁側となりコミュニケーションの場となる(みんなの公園)

地域のこどもたちが集まり居場所となる(豊川市葵風館)

サードプレイスをつくるさまざまな仕掛け







動きのある遊びが可能となるミストポール

遊び場となる涼みの場としての薄層水盤

B. 減災のランドスケープ

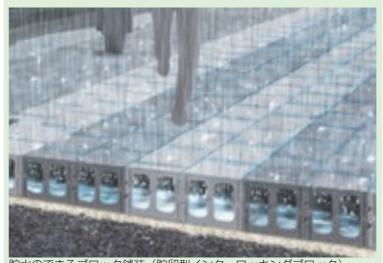


植栽帯を使ったレインガーデン

グリーンインフラ技術



透水性のあるポーラスコンクリート(左)や保湿性のある土ブロック(右)地域で愛された郷土の植物をのタネから市民とともに育てる



貯水のできるブロック舗装(貯留型インターロッキングブロック)

C. 地域に愛される施設づくり



さまざまなニーズに応えられるデザイン

愛着のわく場づくりのための取り組み





市民参加型のサイン



多世代・多用途利用に利用しやすい、サードプレイスとしての小さな居場所が集まるプロムナード(施設間通路)サードプレイス: 家庭(第1の場)・職場(第2の場)でもない第3の居心地の良い場所

・庁舎との連携を強める南北を縦貫するプロムナード (施設間通路)を中心に、ジグザグ形状により多様な居場所を創出します。 ・場所ごとに異なる舗装と家具・植栽の組み合わせにより、限られた空間の中で異なる活動が併存できる場を目指します。

プロムナード(施設問題路) エントランス

敷地を南北に結ぶプロムナー 内外を一体的な舗装でつなド(施設間通路)を計画し、 ぎ、駐車場から室内へとス 庁舎と計画施設を繋ぐととも ムーズに導く。また車回しとに、ベンチや広場などの小さ 歩道との間には車止めを設置 な居場所を内包した施設の核 し、歩行者の安全性に配慮し

高生垣

庁舎の裏手にあたるため、高 生垣により目隠しをすること で、計画施設側からの景観に 配慮します。立体的な緑化に より緑視率が向上し、リラッ クスできる空間となります。

ベンチ

芝生広場

西側には芝生のある小さな小 広場を設置し、子どもたちの 遊び場としての利用を促しま す。またミストポールなどを 設置し、多様な遊びができる

縁側

南側の駐車場やバス停から見 ピースる位置にテラスを張り出し るまています。「交流のイマ」で するの活動が外部まで展開するこ とができ、本施設での活動が しかにまで溢れ出します。 する

見守りテラス

ピロティ広場での活動を見守る場としてテラスを設置します。 机や椅子を設置することで、飲食や会話、学習の場としても利用することができま

ステージ

ピロティ広場端部にステージ を設置し、さまざまなイベントができるようにします。また、ベンチを設置することで、日常的な交流の場として機能します。

薄層水盤

厚さ数ミリの薄層水盤を設置 し、水場として楽しめる遊び 場とします。冬場や検診車な どが利用する際は水をとめる ことでピロティ広場と一体的 に利用できます。

